平成 20 年 12 月 25 日

文　部　科　学　大　臣
　塩　谷　　立　　殿

経　済　産　業　大　臣
　二　階　俊　博　殿

東京都千代田区九段北１－９－５
朝日九段マンシヨン９０２号室

（社）日本時計学会

会長　　石　坂　昭　夫

平成２１年度事業計画及び収支予算書

平成２１年度において実施する事業計画及びこれに伴う収支予算計画について、別紙のとおりお届します。

添付書類：

１．事業計画書
２．収支予算計算書
３．理事会議事録（関連資料）
４．総会議事録（関連資料）

（社）日本時計学会
平 成 ２１ 年 度 事 業 計 画 書（案）

（平成２１年１月１日から平成２１年１２月３１日まで）

Ⅰ．事業計画

１．研究会、学術講演会等の開催

（１）学術講演会

マイクロメカトロニクス学術講演会を９月上旬、中央大学で開催する。

研究論文発表２０件程度を予定する。

（２）研究会

時計及び時計応用技術に係わる最先端のテーマを２件選定し、専門の講師を招いての研究会を、３月及び１１月の２回中央大学理工学部教室で開催する。

（３）見学会

会員の研修のため、産業界、特に時計技術に関連する分野において顕著な業績を挙げている工場、研究機関等の見学会を６月に行う。

２．時計及び時計応用技術に関する調査研究分科会の設置

時計及び時計応用技術に関する調査研究を行うため，平成２０年度進行中の３つの調査研究分科会を継続する。各調査研究分科会メンバーは１０～２０名程度とする。年４回程度の会合を開催し，調査研究の成果は報告書または学会誌の記事によって報告する。

平成２０年度進行中の調査研究分科会の平成２１年度活動計画は以下の通りである。

2.1 「時計エネルギーに関する調査研究分科会」

（幹事：佐々木 健　東京大学）

時計エネルギー調査研究分科会は，多機能化され，高度な情報機器として位置づけられるようになってきた時計に要求される電源の新しい要求仕様を調査することを目的として設置されている．2009 年度の活動は 2008 年度の活動を継承し，引き続き次に示す２つの大きなテーマを中心に調査研究を進める。

①二次電池技術の現状と時計用二次電池の要求仕様

②新しい発電方式の調査とその技術評価

具体的な活動計画は２ヶ月に１回程度の研究会を開催して調査結果の報告と議論を重ねると共に、電池メーカーの技術者を招待して話を聞く機会を設けるなど、より具体的な議論を進めることである。最終的には本学会の研究調査分科会として電池メーカーに提案できるような時計用二次電池の要求仕様を纏めることを目標としている。

2.2 「チップスケール原子時計に関する調査研究分科会」

（幹事：今江 理人　産業技術総合研究所）

年間３～４回の全体会合を開催し、各委員から検討事項に関する報告や議論・考察

を行い、調査研究の方向性を検討する。 主な調査事項は、チップスケール原子時計に関する国内外の研究開発動向調査、同原子時計の応用分野に関する調査で、提起された課題に応じ、適宜サブワーキンググループなどを構成し、より深い調査研究を行なう。 また、小型原子時計開発に関して見学会などを開催し、当該分科会委員の相互理解に寄与する。

2.3 「時計ものづくり調査研究分科会」

（幹事：木村　南　東京工業高等専門学校）

アナログクォーツ時計はメカトロニクス製品としてのパイオニア的存在であり、希土類磁石ステッピングモータ、液晶等表示体、各種センサの組み込み、表面実装技術など多くの生産技術上の開発がなされてきた。また機械式時計が高付加価値製品として脚光を浴びているが、熟練技術の伝承については各社共通の課題でもある。本分科会ではメカトロニクス機器としての生産技術や精密加工技術、鏡面研摩、機械式時計の分解・組立て・調整技術にも焦点をあてていく。そこで年間 3～4 回の分科会を開催し、マイクロメカトロニクス学術講演会で講演された時計ものづくり事例について、発表者らを講師として招待し調査を行う。将来的には「時計ものづくり」のハンドブックとしてまとめることを目標とする。

３．学会誌、学術図書等の刊行

（１）学会誌「マイクロメカトロニクス」を下記のとおり年２回発行する。

Ｖｏｌ．５３，Ｎｏ．２００：平成２１年　　６月、４００　部

Ｖｏｌ．５３，Ｎｏ．２０１：平成２１年　１２月、３５０　部

なお、会誌２００号を会誌特別記念号とする。そのため、本学会の近年の歩みや活動記録および今後の活動方針などについて会員および時計関係業界の技術担当者に執筆を依頼する。

（２）学術講演会講演論文集を年１回発行する。

マイクロメカトロニクス学術講演会講演論文集：平成２１年９月、１５０部

４．研究の奨励及び研究業績の表彰

青木賞表彰委員会を設け、平成２０年度の日本時計学会誌「マイクロメカトロニクス」に掲載された研究論文の中から、当学会初代会長青木保博士を記念した第４３回青木賞受賞の対象として研究論文を１編選考する。

マイクロメカトロニクス学術講演会の際、第４３回青木賞贈呈式を行なう。

５．内外関係機関等との交流及び協力

①米国 National Institute of Standards and Technology、National Association of Watch and Clock Collectors、LIB.of Congress、英国 The British Library、Michael Faraday House、LIB.of Japanese Science & Technology、ロシア The Inst. of Scientific & Technical Informatin(VINITI)、ドイツ Universitats-und Technische Informationbibliothek 等６機関誌と情報交換を行なう。

②研究会を日本機械学会、応用物理学会、電子情報通信学会等関係学会と協賛して開催する。

Ⅱ．会議に関する事項

１．理事会を６回以上開催する。
２．通常総会を２月及び１２月に開催する。
３．運営委員会を６回程度開催する。
４．各研究調査分科会を４回程度開催する。
５．企画委員会を３回程度開催する。
６．青木賞表彰委員会を２回程度開催する。
７．事業委員会を４回程度開催する。
８．出版校閲委員会を４回程度開催する。
９．庶務会計委員会を２回程度開催する。